

平成 28 年度 第 3 回（震災後 第 6 7 回）

陸前高田市保健医療福祉未来図会議

平成 28 年 6 月 17 日(金) 13:30～15:30

陸前高田市役所 4 号棟第 6 会議室

次 第

◆テーマ

「誰もが住みやすいまちづくりに向けて

～今ある差別の実感、できている・できていない合理的配慮～」

1 あいさつ

陸前高田市 民生部 保健課長補佐 尾形良一

2 内容

(1) 未来図会議のめざすところと「これから」

陸前高田市地域包括ケアアドバイザー 岩室紳也氏

(2) 報告

報告① 「今ある差別の実感、できている・できていない合理的配慮」

地域福祉課 障がい福祉係長 中川健司

報告② 「当事者からみた合理的配慮の実際」

岩手県視覚障害者福祉協会 大船渡支部 副支部長 熊谷賢一氏

(3) グループで「はまってけらいん、かだつてけらいん」

⇒テーマ：誰もが住みやすいまちづくりに向けて

①法律に関わらず、これまでに身近で感じた差別や合理的配慮について

②今日を受けて、これから私ができる・やってみたい合理的配慮について

例) 郵送文書について：文体や文字サイズ、点字など・・・

3 その他連絡・アナウンス

【事務局：陸前高田市民生部】

※次回（第 68 回）：平成 28 年 7 月 22 日（金）13：30～15：30

◆7月メインテーマ（仮）：**通いの場づくり ～つながりを持ち続ける理由～①**

・・・市内にある各種サロンや通いの場の実際から見てくること

◆会場：市役所 第 4 号棟 第 6 会議室

平成28年度の陸前高田市保健医療福祉未来図会議（月1回）の予定

○日程と月別テーマ（予定）

H28年： **8/19（金）第69回**

（仮）まちづくりプラットフォームやNPO法人の強みを生かしてもらうためには

9/16（金）第70回

（仮）通いの場づくり ～つながりを持ち続ける理由～②

10/14（金）第71回

（仮）子どもからお年寄りまで誰もが集える居場所づくり、コミュニティづくりとは

【出張未来図会議：栃ヶ沢公営住宅集会室（予定）】

11/11（金）第72回

（仮）子育て世代が必要としている支援、切れ目のない妊産婦・乳幼児への支援とは

～子ども・子育て世代への合理的配慮って？～

12/16（金）第73回

（仮）エンド・オブ・ライフケアと地域コミュニティ

～地域でその人らしく最期を迎えるために～

H29年： **1/20（金）第74回**

2/17（金）第75回

3/17（金）第76回

※検討中

○会議の趣旨

住民の生活にかかわる関係者が集まり、住民一人一人の健康で文化的な生活及びノーマライゼーションという言葉のいらないまちづくりの実現を目指し、震災のからの復興に向けた地域にとってよりよい体制づくりに寄与し続けられるよう、保健医療福祉分野の視点から中・長期的な展望を議論する。

○大きな方向性

- ・ノーマライゼーションという言葉のいらないまちづくりの推進
「はまってけらいん、かだってけらいん運動」の推進
- ・ハイリスクアプローチとポピュレーションアプローチの融合・実践
- ・市民・他分野機関との協働、未来図（計画）策定
- ・居場所づくり、相互の経験に学ぶネットワークづくり

○陸前高田市保健医療福祉未来図会議メーリングリスト

◆こちらまでお知らせください。

<http://goo.gl/forms/NFUsNqBn3c>

平成28年度 第3回
(震災後67回)
陸前高田市
保健医療福祉未来図会議

平成28年6月17日(金) 13:30~15:30
陸前高田市役所 4号棟 第6会議室

本日(H28.6/17)の会議の概要

◆テーマ

誰もが住みやすいまちづくりに向けて
~今ある差別の実感、できている・
できていない合理的配慮~

【H28.2月テーマ】他人(ひと)ごと意識の解消
~今ある差別・虐待とこれからの配慮~

H28.2.19未来図会議
次年度(H28年4月~)までの宿題

①不当な差別的取扱いが、どんなところに、どのくらいあったか

②合理的配慮を考えて生活、行動ができるか

気づきを増やし、共有しましょう

本日(H28.6/17)の会議の進め方①

◆タイムスケジュール ~14:10

(1) 未来図会議のめざすところと「これから」

⇒ 陸前高田市 地域包括ケアアドバイザー 岩室紳也氏

(2) 報告

報告①「今ある差別の実感、できている・できていない合理的配慮」

地域福祉課 障がい福祉係長 中川健司

報告②「当事者からみた合理的配慮の実際」

岩手県視覚障害者福祉協会 大船渡支部
副支部長 熊谷賢一氏

本日(H28.6/17)の会議の進め方②

◆タイムスケジュール 14:10~15:20

(3) グループで「はまってけらいん、かだつてけらいん」

⇒テーマ: 誰もが住みやすいまちづくりに向けて

①法律に関わらず、これまでに身近で感じた差別や合理的配慮について

②今日を受けて、これから私ができる・やってみたい合理的配慮について

例) 郵送文書について: 文体や文字サイズ、点字など...

15:25~ 個別アナウンス・周知

未来図会議のめざすところと「これから」

陸前高田市 地域包括ケアアドバイザー 岩室紳也氏

○会議の趣旨(次第裏面)

住民の生活にかかわる関係者が集まり、住民一人一人の健康で文化的な生活及びノーマライゼーションという言葉のいないまちづくりの実現を目指し、震災のからの復興に向けた地域にとってよりよい体制づくりに寄与し続けられるよう、保健医療福祉分野の視点から中・長期的な展望を議論する。

未来図会議の目指すところと「これから」

未来図会議のめざすところと「これから」

住民の生活にかかわる関係者が集まり、**住民一人一人の健康で文化的な生活及びノーマライゼーションという言葉のいらないまちづくり**の実現を目指し、震災のからの復興に向けた地域にとってよりよい体制づくりに寄与し続けられるよう、保健医療福祉分野の視点から中・長期的な展望を議論する。



健康づくりの方向性に学ぶ

健康日本21(第2次)概念図

全ての国民が共に支え合い、健やかで心豊かに生活できる活力ある社会の実現

① 健康寿命の延伸・健康格差の縮小

生活の質の向上

の機会の増加

生活習慣病の発症予防・重症予防

生活習慣(リスクファクター)

次期国民健康づくり運動による具体的取組

健康日本21(第2次)概念図

健康寿命の延伸・健康格差の縮小

ソーシャルキャピタルの向上

①地域のつながりの強化

〈ソーシャルキャピタルの向上〉

- ①地域のつながりの強化
- 〈多様な活動主体による自発的取組の推進〉
- ②健康づくりに主体的に関わる国民の割合の増加
- ③健康づくりの活動に主体的に取り組む企業数の増加
- ④健康づくりに関して身近で専門的な支援・相談が受けられる民間団体の活動拠点数の増加
- 〈健康格差の縮小〉
- ⑤健康格差の実態を把握し、対策に取り組む自治体の増加

「つながり」

たとえば

「絆」？

絆

はどう読みますか

絆(きずな)

つながり むすびつき

絆(ほだし)

手かせ 足かせ 迷惑 束縛

相反するから「お互い様」

ソーシャル・キャピタル(社会関係資本)の三要素

信頼

3つは相互に関連

ネットワーク

規範(互酬性)
お互い様

絆(きずな: つながり, むすびつき)

絆(ほだし: 手かせ, 足かせ, 束縛, 迷惑)

http://www.jpba.or.jp/sub/mecsu01_10.html

ソーシャル・キャピタル(絆[きずな+ほだし])の効用

健康面の効用

総死亡率 ↓

自殺率 ↓

自覚的健康度 ↑

健康行動 ↑

喫煙率 ↓

運動習慣 ↑

健康以外の効用

行政効率

まちおこし

防災対策

治安・防犯

子育て

教育

就労

経済成長

技術革新

ソーシャル・キャピタル(絆[きずな+ほだし])

平成26年度厚生労働科学研究(健康安全・危機管理対策総合研究事業)
「地域保健対策におけるソーシャルキャピタルの活用のあるり方に関する研究」
http://www.jpba.or.jp/sub/mecsu01_10.html

障害を抱えている

一人一人の

絆(きずな+ほだし)

のためにできることは?

同じ状況でも別の結果になる理由

解決したい課題

生きづらさ

生きやすさ

障がい

課題の原因の原因(リスク)追求という視点も必要？

解決したい課題

生きづらさ

生きやすさ

課題につながる
リスクは何？

あり

なし

社会に蔓延するリスク

障がい

課題の原因の原因(リスク)追求という視点も必要？

解決したい課題

生きづらさ

生きやすさ

課題につながる
リスクは何？

あり

なし

他人ごと意識という
社会に蔓延するリスク

障がい

課題の原因の原因(リスク)追求という視点も必要？

解決したい課題

生きづらさ

生きやすさ

課題につながる
リスクは何？

あり

なし

絆(きずな+ほだし)が弱いという
社会に蔓延するリスク

障がい

課題の原因の原因(リスク)追求という視点も必要？

解決したい課題

生きづらさ

生きやすさ

課題につながる
リスクは何？

未来図会議は

アイデア、ヒントを共有し、
社会、地域に向けた提言を行い、
協働を、ヘルスプロモーションを
推進する場

障がい

本日（H28.6.17）の会議の概要

★テーマ

誰もが住みやすいまちづくりに向けて

～今ある差別の実感、
できている・できていない合理的配慮～

報告者 陸前高田市民生部地域福祉課 障がい福祉係 中川 健司

1

1 障害者差別解消法について

2 今ある差別の実感

3 合理的配慮について

2

1 障害者差別解消法について

平成28年4月1日より施行



- ◆ 不当な差別的取扱いの禁止
- ◆ 合理的配慮の提供

3

陸前高田市では法の施行以前より、

ノーマライゼーションという
言葉のいらないまちづくり

の理念の元に

アクションプラン（行動計画）

を策定

4



5

2 今ある差別の実感

意識できていない身の回りにおける差別
例: 車いすで食事に行くと、何も言っていないのにイスを外された
⇒ 思い込みによる差別

6



平成28年5月31日 市長と語る会（つばきの会・利用者の方々と）

7

3 合理的配慮について

合理的配慮のために必要なこと



問いてみること = 理解し合うこと

8

身近な合理的配慮について

- ・大会で給水の際、紙コップでしか配布してくれなかった。
(給水側) 無制限に給水できないため、紙コップという枠を設定したい
- (受水側) 紙コップでは飲みにくい障がいの方もいる。

⇒ 合理的配慮のためには？

9

「してもらうもの」・「してあげるもの」
ではなく



「お互いにとって住みやすいまち」
にするにはどうすれば良いか

10

当事者から見た 合理的配慮について

報告者 岩手県視覚障害者福祉協会
大船渡支部
副支部長 熊谷賢一

11

当事者からみた合理的配慮の実際

岩手県視覚障害者福祉協会 大船渡支部
副支部長 熊谷賢一氏

当事者からみた合理的配慮の実際

熊谷賢一さんから

- ・自宅に届く文書がどこから来たものなのかわからないという事実がある
- ・届いた文書もどういうものなのか(親展?、急ぐのかそうでないのか)わかるように…
- ・点字があるとよいが、読める人は全体の10%くらい(少ない)という状況もある
- ・音声化できるコードを付けるとよい
- ・ヘルパーさんをお願いするにも、もともとの契約内容(散歩や買い物など)に影響を与えてしまいかねないため、文書等の取扱いもできるような方法を考える必要がある
- ・外出についても課題がある(バス停までの移動、集まり方についてもたいへん)
- ・オンデマンドの拡大、人の支援の拡大
- ・買い物について、たとえばイオン等では、ボタンを押すことで買い物を助けてくれる人がいるが、個人の商店等では難しいという状況もある
- ・健康づくりのために施設を利用しようと思っても、その施設でのガイドの方がいないと安全にスポーツをすることができない
- ・仕事:鍼灸マッサージ以外の場等で働くことのできる体制

グループで「はまってけらいん、かだってけらいん」

◆テーマ: 誰もが住みやすいまちづくりに向けて

①法律に関わらず、これまでに身近で感じた差別や合理的配慮について

14:10~14:30 グループはまかだ

14:30~14:45 全体発表

誰もが住みやすいまちづくりに向けて (1G)

①法律に関わらず、これまでに身近で感じた差別や合理的配慮について

差別だったかも..	合理的配慮でなかったかも..
<ul style="list-style-type: none">・いろんな障がいがあるが知らない・キャップハンディ体験をして、その状態を知る事の大切さ	<ul style="list-style-type: none">・「聞いてみること」と「話してみること」が大事・下肢障がいがある方の場合、畳の部屋自体が難しい →椅子が自然に使える配慮があるとよい・多様な声をあげる場面があるかどうか… →そういう場に参加できていないこと 情報が入らない(バリアがある)・ハードは出来る前に話すことができると意見になるが、出来た後に話すとクレームになりかねない

誰もが住みやすいまちづくりに向けて (2G)

①法律に関わらず、これまでに身近で感じた差別や合理的配慮について

差別だったかも..	合理的配慮でなかったかも..
	<ul style="list-style-type: none">・点字ブロックは視覚障がい者にとっては大事だが、子どもや松葉杖の方にはたいへん → 現在の規格よりも5mm低く作る点字ブロックもある・お子さんの体重を見て、大きいですねと、いい意味で伝えたつもりが、実は肥満児であった..という場面もある・孫と来たお祖父さんかと思い、話していたが、実はお父さんだった..ということもある

誰もが住みやすいまちづくりに向けて (3G)

①法律に関わらず、これまでに身近で感じた差別や合理的配慮について

差別だったかも..	合理的配慮でなかったかも..
	<ul style="list-style-type: none">・大学での講義資料としてPowerPointの色使いが色盲の方へは配慮がなかった・同性愛者への配慮のない発言・全盲に近い方への言葉づかい・視覚障がい者への声のサービス →情報量が多すぎて、疲れてしまうこともある・聴覚障がい者が「ない」と思いこんで会議を開いてしまった・食事(高齢者):のどにつまるのできざんでしまったが、本人は食欲を失ってしまったことがあった

グループで「はまってけらいん、かだってけらいん」

◆テーマ: 誰もが住みやすいまちづくりに向けて

②今日を受けて、これから私ができる・やってみたい合理的配慮について

例) 郵送文書について: 文体や文字サイズ、点字

14:45~15:05 グループはまかだ

15:05~15:20 全体発表

誰もが住みやすいまちづくりに向けて

②今日を受けてこれから私ができる・やってみたい合理的配慮について

こんなことをやってみようと思う.. (1/2)

- ・相手への声かけをしていきたい
- ・文書: 文字の大きさ、大事なものを強調するやり方を工夫していきたい
- ・困っているように見える人には声をかける
- ・視覚障がいの場合、声をかけられただけではわからないため、肩にふれてから話しかける
- ・建物の配慮が少ないところは、人(ソフトで)がカバーする
- ・街の中にどういもの(点字表示やブロック)があるか、知ろうとしながら生活することが大事
- ・体験できる機会があれば、なんでも経験する(経験してみないと実際はわからない)
- ・見た目判断せず、あいまいなところは確認することが大切
- ・いろいろな人と交流することが重要
- ・市役所: 交流できる広場を設ける(街の中など...)
- ・ガイドの方が、街の中で自然に声をかけられるようにいる
- ・情報、コミュニケーション → 自ら発言することがまずは大事(障がいの方も)
- ・どこに困っている人がいるかわからない、ふれあう場面がない、どう伝えていくか
→ つなぐ人がいるといい
- ・手話サークル → 当事者がいなくとも設立後にいろんな人とつながっていった、できる人から始める

誰もが住みやすいまちづくりに向けて

②今日を受けてこれから私ができる・やってみたい合理的配慮について

こんなことをやってみようと思う.. (2/2)

- ・困っている側からの発言も聞きあえること
 - 高齢者: マイクの音量について、反響してしまって、かえって聞こえなかった場面もあった
なんでもお互いが聞けること大事
- ・キャップハンディ体験できることが大事
- ・ノーマライゼーションという言葉の知らないまちづくりの推進(市役所)
 - まずは職員向けに研修をすることから始める

熊谷賢一さん

読み書き
外出
買い物
日常の楽しみ
仕事

どうして合理的配慮ができないか

わがまま

気遣い

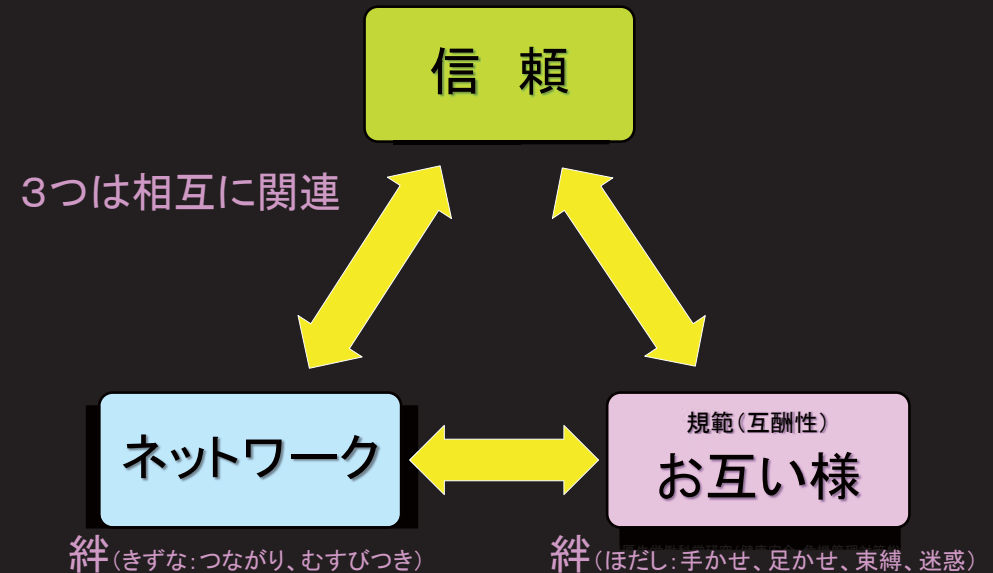
合理的配慮

差別

上から目線

何でも聞ける
何でも言える

ソーシャル・キャピタル(社会関係資本)の三要素



次回(平成28年度第4回)未来図会議予定

◆日時

平成28年7月22日(金)13:30~15:30

◆メインテーマ(仮)

通いの場づくり~つながりを持ち続ける理由~①

…市内にある各種サロンや通いの場の実際から見えてくること

◆会場:陸前高田市役所第4号棟第6会議室

◆次々回(平成28年度第5回)

平成28年8月19日(金)13:30~15:30

平成28年度の陸前高田市保健医療福祉 未来図会議(月1回)の予定

○日程(予定)

H28年:7/22(金)、8/19(金)、9/16(金)、10/14(金)

11/11(金)、12/16(金)

H29年:1/20(金)、2/17(金)、3/17(金)

※3/17(金)会場変更:陸前高田市コミュニティホール

○年間テーマ

私から始める他人(ひと)ごと意識の解消

~ノーマライゼーションという言葉のいらぬまちづくりの実践~

「はまってけらいん、かだつてけらいん運動」の推進、ハイリスクアプローチとポピュレーションアプローチの融合・実践、市民・他分野機関との協働、未来図(計画)策定、居場所づくり、相互の経験に学ぶネットワークづくり

平成28年度の陸前高田市保健医療福祉 未来図会議月別テーマ予定

・8/19(金)第69回

(仮)まちづくりプラットフォームやNPO法人の強みを生かしてもらうためには

・9/16(金)第70回

(仮)通いの場づくり ~つながりを持ち続ける理由~②

・10/14(金)第71回

(仮)子どもからお年寄りまで誰もが集える居場所づくり、コミュニティづくりとは【出張未来図会議:栃ヶ沢公営住宅集会室(予定)】

・11/11(金)第72回

(仮)子育て世代が必要としている支援、切れ目のない妊産婦・乳幼児への支援とは ~子ども・子育て世代への合理的配慮って?~

・12/16(金)第73回

(仮)エンド・オブ・ライフケアと地域コミュニティ~地域でその人らしく最期を迎えるために~

陸前高田市保健医療福祉未来図会議 メーリングリスト

◆こちらまでお知らせください。

<http://goo.gl/forms/NFUsNqBn3c>

The screenshot shows a web browser displaying a Google Forms registration page. The page title is "陸前高田市保健医療福祉未来図会議 参加希望申し込みサイト". Below the title, there is a note: "未来図会議への参加をご希望される方はここから申し込んでください。". There are two required fields: "氏名*" (Name) and "メールアドレス*" (Email address), each with an input box. The browser's address bar shows the URL: "docs.google.com/forms/d/1ZVNHASz2jUzP_YAStoole-u6p6E7FmN8F9_a1hBxxA/viewform?c=0&w=1".

2016年5月31日

論説

障害者差別解消法

障害者差別解消法の施行から2カ月になる。障害者に対する不当な差別を禁止し、合理的配慮をすることで、障害がある人もない人も共生する社会の実現をうたっている。

だがこの間、実質的な変化はあっただろうか。合理的配慮とは具体的にどういうことか、議論が深まっただろうか、いずれも否だ。

最たる例が今月の衆院厚生労働委員会での失態。障害者総合支援法改正案をめぐる参事人質疑で、徐々に全身の筋肉が動かなくなる筋萎縮性側索硬化症(ALS)の男性の

出席を、自民党が「やりとり時間がかる」と難色を示し拒否した。

差別解消法では、国や地方の行政機関に合理的配慮を義務づけ、民間事業者は努力義務としている。国会対応こそ合理的配慮の欠如の典型例。

批判を受け衆院委員長が謝罪し、男性は参院厚労委で参事人として意見陳述した。「施行から2カ月しかたっていない」という言い訳は通

じない。法の成立は2013年6月のことだ。周知期間を確保するため、施行が16年4月になった経緯を、国会議員が知らないわけがない。

根強い「人ごと意識」を払拭しないことには、実質的な差別の解消は進まないだろう。

「四肢不自由の方が市役所に『氷上山に登って朝日を見たい』と要望した。あなたならどうしますか」。架空の状況を設定し、参加者が議論するだろう。

「人ごと意識」の払拭を

う。そのため、自分が障害者と関わったらどう「配慮」すればいいのか、具体的に考える機会を積み重ねたい。

陸前高田市では震災後、幅広い官民が集い、新たな保健医療福祉ビジョンを共有する「未来図会議」を定期的に開

いている。今年2月には、障害者らさまざまな立場の人への配慮をテーマにした。

「道路が整備されている同市の『箱根山なら大丈夫』とやりとりできることが、合理的配慮ではないか」などと活発に意見を交わした。

参加者からは「自分のこととして捉えていけばいい」と話し合う場が大切との感想も。

「道路が整備されている同市の『箱根山なら大丈夫』とやりとりできることが、合理的配慮ではないか」などと活発に意見を交わした。

6月17日の会議では再度このテーマで議論する。こうした議論の場が、各地で設けられてほしい。議論のプロセスこそ、合理的配慮とは何か、障害者ら多様な人たちが共生する地域とは何かを、主体的に考える一歩になるだろう。

差別解消法など一連の障害者施策充実の原動力は、「私たちのことを私たち抜きに決めないで」を合言葉にした障害当事者の運動だった。

高齢化が進む日本では、誰も重い病気や障害を抱える可能性がある。「人ごと」から「私のこと」へ。国会議員はむろん、社会全体の意識変革が求められている。

「道路が整備されている同市の『箱根山なら大丈夫』とやりとりできることが、合理的配慮ではないか」などと活発に意見を交わした。

さくらっ娘隊がやる

第5回 陶芸教室

私達さくらっ娘隊は、愛知県常滑市を中心に長年活動している陶芸家グループです。

二〇一二年夏より陸前高田市を中心に毎年お地藏さま作りの陶芸教室を開いてまいりました。五回目となる今年も、陸前高田市、大船渡市、大槌町と下記の四会場で開催することになりました。

お地藏さま作りは、土に触れ、作り上げる時、無心になれる体験でもあります。そして、焼き上がった作品を側に置いて心が穏やかになる喜びがあります。

この機会に是非、お地藏さま作りに参加してみませんか？
皆さまのお越しをお待ちしております！

さくらっ娘隊一同

2016年

陶芸教室開催日時

体験料:1人300円

7月8日(金)

①午前10:00～

中田公営住宅 集会所(陸前高田市)

②午後 2:00～

サポートセンター とみおか(大船渡市)

7月9日(土)

③午前10:00～

竹駒コミュニティセンター(陸前高田市)

7月10日(日)

④午前10:00～

岩手県立大槌病院(大槌町)

** 詳細は裏面をご覧ください **

お地藏さんをつくりませんか？

主催 さくらっ娘隊

2016年 陶芸教室 場所詳細

- 7月8日(金) ①午前10:00～ 中田公営住宅 集会所
〒029-2205 岩手県陸前高田市陸前高田町字中田58-2
- ②午後 2:00～ サポートセンター とみおか
〒022-0004 岩手県大船渡市猪川町62-1
- 7月9日(土) ③午前10:00～ 竹駒コミュニティセンター
〒029-2203 岩手県陸前高田市竹駒町字館44
協力: 陸前高田市役所生涯学習課(0192-54-2111)
- 7月10日(日) ④午前10:00～ 岩手県立大槌病院
〒028-1121 岩手県上閉伊郡大槌町小槌第23地割字寺野1-1

お申し込み
お問い合わせ

- ①佐藤ます子 TEL090-3698-6385
②サポートセンター とみおか TEL0192-21-4155
③佐藤ます子 TEL090-3698-6385
④佐々木千幸(看護師) TEL 0193-42-2121 Fax 0193-42-3148



- ※ 持ち物 : エプロン・手ふきタオル
※ 各教室の制作時間は、1.5～2時間ほどです。

キリトリ線

お申し込み書

の陶芸教室に参加します。

①～④の希望の教室の番号をご記入ください
(上記参照)

住所

氏名

TEL

切日:7月2日

娘隊、かく

わくわく子育て健康づくり

Blooming
TAKATA

ママのお悩みを 療法士が サポートします!

7月24日
(日曜日)
10時~13時

わくわく子育て健康づくりセミナー

Presented by 訪問リハビリテーションさんぽ

今回のテーマは…

- ☆ママのための腰痛対策講座
- ☆新聞紙で遊ぼう!

お話をさせていただくのは
訪問リハビリを行っている
2人の療法士です!



運動の専門家の視点から
女性の産後の腰痛やその対策
についてお伝えします!



理学療法士
城尾健二



新聞紙を使い、手軽に楽しく
お子さんと一緒にできる
身体や脳の発達を促す遊び
をお伝えします! (実演あり)



作業療法士
及川裕喜

参加費は大人 200円 子ども 無料

当日参加OK!

好評につき今回も小児科医・歯科医などの

専門家とのランチ交流会

お問い合わせ先

BloomingTAKATA事務局 吉田歯科医院内 TEL0192-54-4566

営業時間 平日9:00~18:00 木・土9:00~12:00

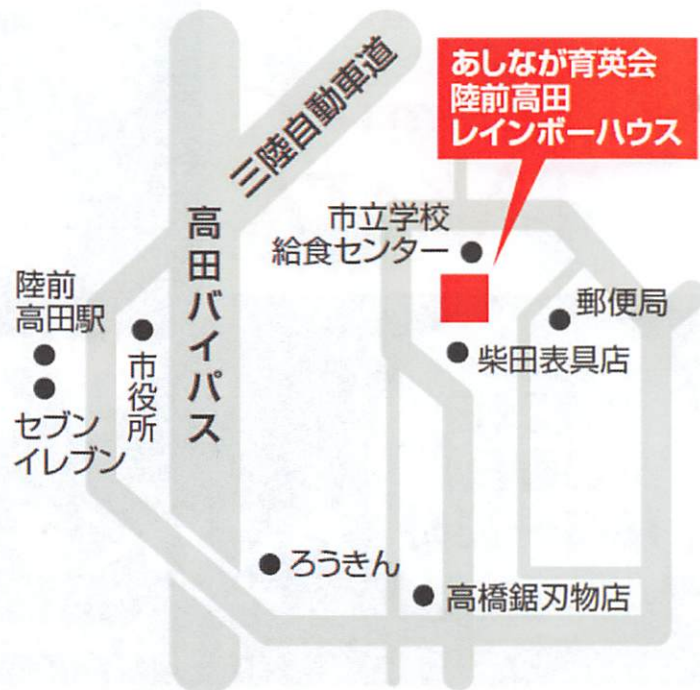
<http://www.facebook.com/blooming.takata/>

わくわく子育て 健康づくりセミナー

【日時】7月24日(日)10時～13時
<当日ランチをご用意しております>

【会場】陸前高田レインボーハウス
〒029-2205 陸前高田市高田町字鳴石112-7

【参加費】200円(ランチ代込)
※子ども無料



※当日は学校給食センターの駐車場もご利用になれます。



Blooming TAKATAは、 子どもの健康づくりを 支援します！

どんな団体なの？

子育てに関する正しい知識の普及や、こどもを取り巻く環境の整備を行い、地域におけるすべての子供の健やかな成長を促すことを目的として活動を行う団体です。

医師、歯科医師をはじめとし、地域で子供たちに携わる関係者等が集まり、今後様々な事業を展開していく予定です。

今回の「わくわく子育て健康づくりセミナー」はその先駆けとして行うものです。

主催：Blooming TAKATA

平成28年度 第2回（震災後第66回） 陸前高田市保健医療福祉未来図会議 議事録

テーマ：「下和野市民交流プラザから学ぶコミュニティの自発的な拡がりを促進していくためには」

日時：平成28年5月27日(金) 13:30～15:30

場所：陸前高田市役所 4号棟第6会議室

参加：47名 14団体

資料：下記にアップ

<http://www.koshu-eisei.net/saigai/rikuzentakatakaigi.html>

1. 挨拶

菅野民生部長

今回の未来図会議は、4月に続き「コミュニティについて考えよう」という場になっている。具体的な話も含めて意見交流をしていただき、今後、陸前高田市の各地区でコミュニティを形成するための参考になればありがたい。ぜひ活発な意見交流をお願いしたい。

2. 内容

(1) 未来図会議のめざすところと「これから」

・陸前高田市地域包括ケアアドバイザー 岩室紳也氏

(2) 報告

報告①「陸前高田市、大槌町における応急仮設住宅訪問調査の結果から」

・岩手県大船渡保健所 所長 久保慶祐氏

報告②「下和野市民交流プラザの1年を振り返って」

・社会福祉協議会 市民交流プラザ常駐員 阿部裕美さん

報告③「下和野団地自治会の活動について」

・下和野団地自治会 自治会長 臼井佐一さん

報告④「下和野復興公営住宅について行政の視点から」

・地域福祉課 課長 高橋良明

※その他参加者のみなさんから

他地区の公営住宅の取組みや、関係団体の工夫、栃ヶ沢公営住宅の準備状況など……

(3) グループで「はまってけらいん、かだってけらいん」

- ・テーマ：報告から見えてきた課題とこれからの具体的な取組みに向けて
～下和野での活動がさらに広がっていくためには、他の地域において進めていくためには～

(1) 未来図会議のめざすところと「これから」

(陸前高田市地域包括ケアアドバイザー 岩室紳也氏)

本日は、この未来図会議がなぜ行われているのか、そこから何が生まれていくのかを皆さんと確認したい。

震災後といえば自殺の問題がある。2011年まで若い世代の自殺がふえてきたが、これは、若い世代へのサポートがないからと考えられる。そこで国は「健康日本21」という健康づくりの中でソーシャル・キャピタルの向上、地域のつながりを強化しようと言っている。

つながりと言えばこの「絆」である。「きずな」と読むが、もう一つ「ほだし」(手かせ・足かせ・束縛・迷惑)と読む。実は、このソーシャル・キャピタルの要素は「信頼」「ネットワーク(きずな)」「お互いさま(ほだし)」であり、この3つがそろって地域のつながりも強化される。「きずな」「ほだし」が醸成されたところでは、自殺も少ないことがわかっている。さらに、自治活動が盛んになり行政効率もよくなってくる。

未来図会議は、どのようにつながりを強化し、コミュニティをつくるのかという考え方を共有する場。仮設住宅の現状に学び、下和野では、どうつながりを強化してコミュニティをつくってきたのか教えていただきたい。

(2) 報告①「陸前高田市、大槌町における応急仮設住宅訪問調査の結果から」

(岩手県大船渡保健所 所長 久保慶祐氏)

昨年の7月から今年の1月まで仮設住宅の健康調査をした結果を報告する。

聞き取り調査は、陸前高田市45団地中31団地、大槌町31団地で行い、住宅状況・生活状況・健康状態・コミュニティ状況などを尋ねる一定の質問票に沿って実施。並行してアンケートもお願いし、自治会長だけではなく多くの方を対象に調査を行った。アンケートの項目は、心の健康状態や住居の状況、医療機関への受診状況、医療アクセスなどである。

住居に関する結果では、「仮設住宅」という一くくりにはできない。相対的に快適性が高いところもあれば、厳しいところもある。建てているハウスメーカーも種類があり、施工業者や建築時期によっても相当違う。防音性は、横並びの間取りでは独立性は保てるが、縦並びの間取りでは家族間でもプライバシーがなくなるという問題があることもわかった。

健康面に関しては、交通が不便になったことがあり心配していたが、病院だけは行っている方が多く、震災前より「自分の体は自分で守らなければいけない」と答えた方も多かった。

見守りは生活支援相談員や社協、予防医学協会の方が来て、気になる人がいれば適切な場所につなぐということが行われている。

生活の状況。仮設団地は20戸～200戸ほどの大きなところまであるが、話を聞くと楽なのは、やはり同じ集落出身の団地だということ。一番大きな関心事は「終の住まい」だが、自

治会長に聞くと「災害公営住宅の人気のない」。特に高齢の方は「鉄の扉が嫌だ」という。皆さん、一戸建ての大きな家に住んでいた方が多く、集団住宅に移ることに心理的な抵抗が大きいことがわかった。

アンケート結果は心の健康を点数であらわし、13点以上が少し心配な人たちとなるが、大槌町・陸前高田が13%、16%と割合が少し高くなっており、長期の仮設住宅で疲れてきているのではないかと思う。岩手医科大学が最近行った調査では、心の健康の点数は高くなっていくという結果も出ており、ある程度実態を反映していると思っている。また、陸前高田の仮設住宅ごとの心の健康の点数は、アクセスが不便だというところでは点数が高く、利便性のいいところでは多少落ちついている。

調査結果をまとめると、生活の質を決めるのは住居の快適性、交通アクセス、コミュニティの居心地のよさだと考える。これは、一般のアパートやマンションでも同じようなことはあるが、仮設住宅は自分で住むところを選択する余地は少ないため、コミュニティの居心地のよさが大事だと思う。

災害公営住宅でのコミュニティ形成は、単身者や高齢者を対象としたほうがいいと思うが、いろいろな形で地域のつながりを保っていくことは大事である。例えば一つのアイデアとして、和歌山県白浜町では「防災をスマートフォンでアナウンス」「子育て世代へのサービスを町から流す」ということを行っており、働き盛りの方や若い方は、IT・ICTを使ったコミュニティ形成も可能性があると思う。また、数の多さをメリットにすることも大切な視点である。

地域包括ケアアドバイザー 岩室紳也氏：

先生に確認したいが、震災前より健康意識が上がったのは何か影響があるのか。

岩手県大船渡保健所 所長 久保慶祐氏：

命を大事にしなければいけないという思いは、言葉に出さずとも訪問した皆さんから感じることができた。実際に沿岸の自殺率は震災以降、一貫して下がっている。

(2) 報告②「下和野市民交流プラザの1年を振り返って」

(社会福祉協議会 市民交流プラザ常駐員 阿部裕美氏)

市民交流プラザは昨年4月22日に開設し、1周年を迎え、記念まつりを開催した。

交流プラザを利用していない方や愛ネットさんにも協力いただいて、ちらし寿司を150食つくり、皆さんに振る舞い楽しく食べた。余興は、団地の住人だけではなく、生活相談員の呼びかけで地域住民も一緒に「はまってよさこい」を披露。余興の合間には団地で行われているサークル活動などの報告や紹介・参加や熊本震災の募金の呼びかけもあり、この日も多くの方が募金に協力をしてくれた。

住民から「私たちも社協と一緒に何かやりたい。1周年をみんなで一緒にお祝いしたい」という声があり、花笠音頭を一緒に行うことができた。住民の皆さんもとても喜び、「一緒にやった」という達成感を得たようだ。石木先生は、ことしから二又診療所に異動したが、診

療を終えて駆けつけてくれ一緒に餅まきをした。この餅も住民が3日ばかりで準備してつくってくれた。

交流プラザを利用する人、しない人にかかわらず、たくさんの住民の方々が自発的に協力し、動いてくれた祭りだった。この1年間、さまざまなきっかけづくりやイベントなどの積み重ねをしてきたことで、下和野団地のコミュニティの輪は広がってきていると感じている。

地域包括ケアアドバイザー 岩室紳也氏:

記念まつりには、今まで交流がない方も参加したが、今回はどんなメンバーで企画をしたのか。

社会福祉協議会 市民交流プラザ常駐員 阿部裕美氏:

交流プラザを利用している住民を中心に、生活相談員やスタッフがたたき台を用意して呼びかけ、それに協力する形で肉づけされた。

(2) 報告③「下和野団地自治会の活動について」

(下和野団地自治会 自治会長 白井佐一氏)

一昨年の10月に入居して1年6カ月になる。団地の集会室は1号棟は7階、2号棟は6階にある。2号棟の中には5つの集会所があるが、主に4号、5号を使用。役員会も5号で行うが、二重サッシで外の音が入ってこないため快適である。入居後すぐに岩手大学農学部の先生の研修で、「コミュニティとは自治会長に従うものでもない。皆さんが気づいてやらなければだめだ」という話があった。まさにそのとおりだと思うが、なかなかそうはいっていない。

現在120世帯中、119戸入居しており、自治会費として毎月1,200円を集めているが、未納者は一人もいない。ことしは90万円ほど黒字になっている。決算を皆さんに説明しようと考えている。

総会で役員を改選するが、来年は移転者が続々と出てくるため一般住宅に移転した方からも募集をするそうである。私も間もなく70歳になるが、60代の方が少なく70代、80代の方が多。60代以下の方は皆さん働いているため、どうするか考えている。

「今後のコミュニティをどのようにつくっていくか」という課題はあるが、幸い1階に交流プラザがあり、プラザの阿部さんのおかげで「お昼を食べる会」が月に1回開催されている。自治会が何かやるのではなく、皆さんが来てやってくれる。去年のお祭りは盛岡の福祉専門学校が来た。ことしはスタッフが足りないと話しているが、何かの形でやりたいと思っている。よろしくお願ひしたい。

(2) 報告④「下和野復興公営住宅について行政の視点から」

(地域福祉課 課長 高橋良明)

当初から下和野団地にかかわり、その中で行政として反省している点は、「困り事への対応が個別対応となった」「その場しのぎで対応した」「ある程度自分でできている方への対応が

後手に回ってしまった」などがある。また、仮設から災害公営住宅に入居した直後に心身のバランスを崩す方が多かったが、その方々への支援がもっと必要だったのではないのかと反省している。そして一番大きな問題は、行政職員はコミュニティ支援での経験が余りないため、知識やノウハウが欠如していたのではないかと考えている。

しかし、交流プラザが完成したことで、さまざまな困り事への対応や問題の共有ができた。また、世帯調査の際、交流プラザを窓口にしたことで、かかわりもできてきたと感じている。一番大きいことは、自治会の活動がだんだんと発展して、企画やサロン、畑、健康づくりなどの自治会活動をきっかけに、出かけてきてくれるようになったことだと思っている。

個人的には、顔の見える関係づくりがコミュニティづくりの王道と考える。そのためには、入居する前から集まる機会を行政側としても意図的に設けていかなければならない。ハイリスクの方々だけを対象とした活動ではなく、問題が起きる前に広く住民で支え合いのできる取り組みも今後強めていかなければならない。現状を把握し、「行政のできること」「自治会のできること」「近隣の方のできること」「家族のできること」を組み合わせ、さまざまなことを行っていく。他人ごととしてではなく、自分のこととして行政を初め皆さんで捉えていければ変わってくると感じている。

地域包括ケアアドバイザー 岩室紳也氏：

行政の中でコミュニティをつくる担当部署はどこが適切だと思うか。

民生部 高橋地域福祉課長：

行政よりも「地域の方々の力をどう出してもらおうか」を考えていくものだと思っている。

地域包括ケアアドバイザー 佐々木亮平氏：

西下にプラザはないが、率直なところを聞かせていただきたい。

黄川田氏：西下災害復興公営住宅【2014年12月入居開始、36/40戸】

西下団地の周りは草だらけで、月の第1日曜日に皆さんと掃除や草刈りをしている。コミュニティについては、隣同士と顔を合わせるのが一番だと思う。

陸前高田市社会福祉協議会生活支援相談員 松本氏：

中田災害復興公営住宅【2015年11月入居開始、129/197戸、2015年12月自治会設立】

私たちが自治会長情報交換会を開いており、中田の自治会長が「コミュニティ活動をやりたい」「女性部や青年部を立ち上げたい」という話をしていたため、定期的な集まりが多いが、同じ西和野仮設から来た人たちのつながりから発展しているのではないかと感じている。

特定非営利活動法人ワーカーズコープ 勝沼氏：

顔の見える関係が、これからのコミュニティをつくる中で一番必要なところだと思っている。外部の力も必要だと思うが、私たちは地域で支え合える、手づくり感のあるサロン活動

をずっと行っている。今後も地域住民が主体となつて行えるサロン活動をしていきたい。

陸前高田市まちづくり協働センター 三浦氏：

栃ヶ沢に県内でも最大規模に近い公営住宅ができるが、住民や行政・支援団体も、どのようなコミュニティづくりの手伝いができるのか、みんなで考える機会を設定している。

(3) グループで「はまってけらいん、かだつてけらいん」

報告から見えてきた課題とこれからの具体例な取り組みに向けて

1 グループ発表：民生部細谷子ども子育て課長

草刈等をするとき、外トイレが使えないので不便があるという意見が出た。

地域包括ケアアドバイザー 佐々木亮平氏：

今後において何かあるか。

民生部細谷子ども子育て課長：

自治会費が裕福という話もあり、臼井会長の手腕だと思う。

2 グループ発表：気仙沼市唐桑総合支所 吉田定子保健師

仕掛けるきっかけが大事だということは、交流プラザがすごくいい味を出していたことでわかる。交流プラザがないところではどうしたらいいかという課題があるが、家族がいてもいなくても、顔の見える関係につなげていくということが「支え合う」ことにつながると感じた。

3 グループ発表：民生部保健課千葉春香保健師

入居前から顔の見える関係性をつくるには、住民だけの主体的な活動には限界があり、情報をキャッチすることは難しいという意見が出た。最初の1回目、2回目の集会は行政が働きかけて人を集め、顔つなぎをしてほしいという意見もあった。

4 グループ発表：民生部保健課千葉愛実保健師

老人クラブと道路の掃除やお茶飲み会が開催されているが、それを連絡係が新しく入ってきた方に知らせて誘っている。先日のチャレンジデーも皆さんで草取りをして盛り上がったという話を聞いた。

5 グループ発表：民生部保健課佐藤包括支援係長

小友町の西下は1人世帯や高齢者が多い団地だが、全員が月1回の掃除へ出てくるという驚きの結果がある。また、集会室に鍵をかけていない。鍵をかけないから、子供たちが学校帰りに集会室に寄ってみんなで遊んだり、高齢になるとトイレの問題もあるため、外から帰

って、自分の部屋に行くまでに間に合わない可能性がある方は、集会室のトイレを使えるということは参考になると思う。

毎月定例会を開いているので、みんなが顔を合わせるきっかけになるが、イベントを開くのも一つであり、下和野で行った1周年記念のイベントは「難しいが、やってみよう」という声が上がった。

6 グループ発表：民生部保健課高橋成美保健師

高田に、ほかの地区から来て活動している方々、「おもてなしの心」など、いろいろしてくれた。本人たちは「全然やっていない」と言うが、充実した活動をしており「謙遜している」という話があった。

中田公営住宅のコミュニティづくりが大変ということだが、大きくても小さくても大変さはあるという話があった。

高田町の栃ヶ沢仮設住宅の方が、ことしの夏に栃ヶ沢の団地、市役所の前の団地に引っ越し方が多いそうである。そこで新しいコミュニティができると思うが、今までできていた仮設住宅時代の太石地区のコミュニティも引っ越しことによって薄くなってしまいう課題もあるという話が出た。

地域包括ケアアドバイザー 佐々木亮平氏：

法政大学の宮城先生から、感想も含めて一言いただきたい。

法政大学現代福祉学部 宮城孝教授：

陸前高田は仮設に残る方や3年以上住んでいる方がかなりいる。栃ヶ沢の災害公営に移るということで、ことしはこの違いが浮き彫りになる転換期ではないか。きょうのテーマである「新しいコミュニティづくり」は重要だと思う。また、久保先生の話も興味深かったが、相談ができない方もいる。弱い方や強い方に合わせた周りの支援が大事ではないかと思うが、私たちが少しでも考えて貢献できればと思っている。

地域包括ケアアドバイザー 岩室紳也氏：

大事なのは、コミュニティをかた苦しく考えず、いろいろな人がつながる環境を仕掛け続けることである。きょうは、そのあたりが共有できたと思う。

◇次回：平成28年6月17日（金）

メインテーマ（仮）：誰もが住みやすいまちづくりに向けて

～今ある差別の実感、できている・できていない合理的配慮

会場：市役所第4号棟第6会議室